

## 栗沢山（甲斐駒ヶ岳展望の山）山行報告

【山城】南アルプス・栗沢山

【日程と天気】2019年7月13日 晴れのち曇り

【メンバー】菊池単独（北沢峠～仙水峠までは室P9名と同行）

【行程】

北沢長衛小屋キャンプ場 8:00—仙水小屋—9:25 仙水峠—11:25 栗沢山 11:50 —13:35  
北沢長衛小屋



- ・わが会定例山行として海の日の3連休に甲斐駒ヶ岳とアサヨ峰を目指し、一番のバスで北沢峠に向かった。梅雨の最中、1日目の13日のみが晴れベースの良くない天気予報、好天なら例年激混みであるが、入山者は少ない。バス待ちの時間を利用し、北岳を撮影した。標高2040mの北沢峠に降り立つとクリンソウの大群落が迎えてくれてお



り、ビックリポンです。クリンソウで有名な奥日光などと比べ、標高が高いため1か月遅いこの時期が見頃である。この花初体験のメンバーが多く、皆さん大喜びです。北沢長衛小屋（標高 1990m）のキャンプ場はすでに多くのテントで一杯、奥の方に3張り確保できるスペースがあり、手際よく設営できた。



- 軽量で8:00にスタートした。沢沿いの仙水小屋に向かう登山道、ロープの張ってあるこんな岩場もあり渋滞気味です。食事が美味しく、リピーターが多い人気の仙水小屋にオダマキが咲いていました。ここは美味しい水で有名であり、皆さん水を補給。令和天皇が以前、黒戸尾根を七丈小屋泊で甲斐駒に登頂し、下山時栗沢山に登り、この水を飲んだ後、あまりの美味しさに、後日侍従から、送ってほしいと連絡があったことを、昨年の秋に宿泊した時に、小屋の主人からお聞きした。



- 百名山を目指していた頃、甲斐駒に初登頂の1994年、この小屋に宿泊、小さな室内にモーツアルトのクラシック（当時はCDであったか??）の澄んだ音色が流れており大感動、さらに刺身まで食べることができびっくりしたことを覚えている。昨秋再度宿泊したが、完全予約制で、一人一畳



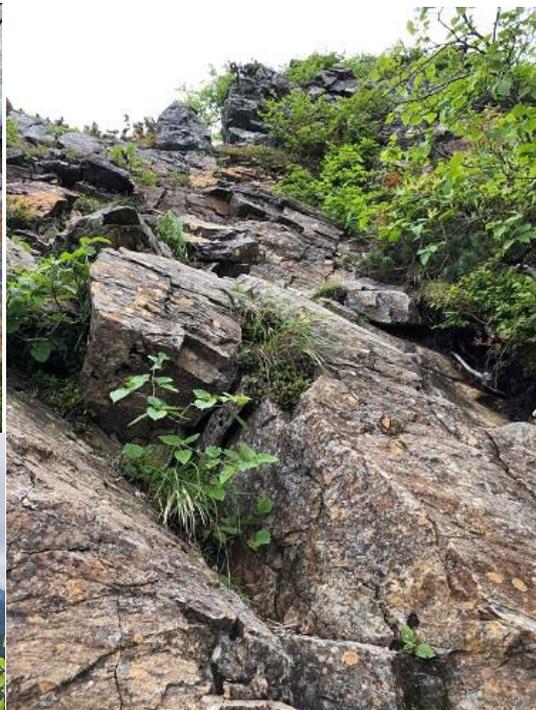
確保できフワフワ布団で、戸外でのお刺身、てんぷらなどの美味しい夕食に大満足した。小屋上のテント場は13張り可能、当初ここにテント泊し、甲斐駒とアサヨ峰をピストンする予定であったが、2日目は悪天予想、甲斐駒ピストンのみに短縮、小生は甲斐駒に3回登頂しており、あこがれのアサヨちゃんに会いに行きたく、CLにお許しを得て単独行することとした。記念撮影の後、仙水峠に向かった。少し進むと岩ゴロゴロ地帯になります。今回の定例は総勢10名、小生と同年代の健脚SAさん以外は若手が多く、30才代も2名、いつもは60才台以上の方々と同行することが殆どの山行とは違い、小生はゆっくり最後尾を追随した。2264mの仙水峠に到着、作家宇野浩二が「山恋ひ」の中で「山の団十郎」とみごとに表現した甲斐駒、大迫力の摩利支天を仰いで、甲斐駒組との別れを惜しんで記念撮影しました。



- ・アサヨ峰に向けて出発、急な樹林帯を進みます。まず標高2714mの栗沢山を目指します。寝不足、体力不足で頭がぼったような感じ、ゆっくりペースで高度を上げます。低木帯に移行する頃から振り返ると、お目当ての団十郎が格好よい姿で、大迫力で間近に見ることができます。栗沢山の山頂が見渡せるようになりました。仙水峠から標高差約450mの急登、けっこうきつく、ゆっくり写真を撮りながら、焦らず一步一步進むだけです。



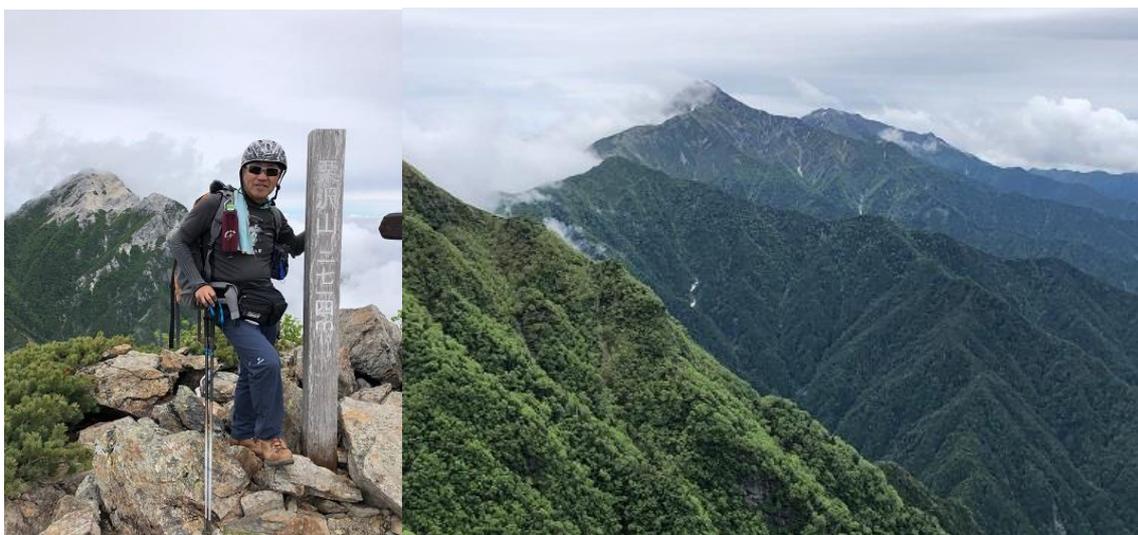
展望が良くなり、少し元気が出てきました。山頂に近づくとイワカガミが多く見られるようになり、ミヤマキンバイがごくわずかに咲いており癒されました。山頂直下はこんな岩場をよじ登ります。結構ハードな縦走路ですよ。



・ 11:26 ようやく栗沢山の山頂に達しました。キャンプ場から標準 3 時間の行程



ですが休憩時間を加え 3:26 かかりました。時間がかかりすぎたと思いましたが、標準歩程 3 時間ですから、年齢的にはそれほど悲観することはありません。しかしかなり疲れていました。アサヨ峰までピストンして帰ってきた方々が数組いました。格好良い憧れのアサヨ峰と右に北岳が見えます。山頂からの甲斐駒、黒戸尾根です。雲が切れるタイミングで、アサヨ峰の右にオベリスクが見えます。ここからアサヨ峰まで地図上は片道 1 時間ですが、疲れているしアップダウンの岩場、小生は往復 3 時間くらいかかるであろう。時間的には OK であるが、天気が速く悪化しそう、下山がかなり遅くなりそう。今回も憧れのアサヨちゃんに我慢しました。この角度で眺める北岳と間ノ岳も素晴らしいですね！！ 2016 年宇田田ヒカルの「南アルプス天然水」の鮮烈な CM で有名な栗沢山、昨秋、芦安への乗り合いタクシーの運転手からお聞きしたこの CM、先ほど始めて動画 <https://www.youtube.com/watch?v=eDjX8gM1WJ8> を見ました。天皇陛下はいつ登頂したのでしょうか。ついに小生も宇田田ヒカルちゃんになれました。山頂で休憩していた若い夫婦の方に写真を撮影していただきました。



- 下山は仙水峠経由より短く標準 1 時間 30 分の、山頂から直接キャンプ場へ下る周回ルートとした。まず仙丈ヶ岳を見ながら岩場を下ります。短いですが急な岩場を慎重に下りほっと一息、甲斐駒の雄姿を目に焼き付けるべくシャッターを押します。樹林帯に入ってきました。甲斐駒の見納めです。新緑の上にガスが湧いてきて幻想的ショットです。





アサヨ峰、縦走路を繋げることは生涯の宿題となってしまいました。現在の小生の体力・気力では満足度 100%の山行といってよいでしょう。下部は木の根っこが滑りやすく要注意です。

- 雨がぼつぼつしてきた 13 時半過ぎ、テント場に到着。つまみとウイスキーを持参して小屋の軒下で一人宴会開始です。まず大ジョッキ、そのあとウイスキーの水割り 2 杯ですっかり酔いが回っています。甲斐駒組を待つ間、雨脚は強くなりやや心配です。14 時頃から一人宴会、隣で宴会しているグループの面白いお話に耳かたむけたり、小屋の受付係のお兄さんに「甲斐駒ピストンは地図の時間は少なすぎ昭文社にコースタイムを訂正するように依頼しているが、らちが明かない。皆さん苦勞している。たぶん 6 時頃にはなるだろう」などなどお話ししました。次から次へと下山してくるハイカーはずぶ濡れになりながらヘトヘトの態です。

- そのうちスキー談義をし始めたグループに加わり山スキー談義を楽しんでいるうちに KIさんと TKさんが 17 時半過ぎに先行して下山してきました。やはりヘロヘロの態ですが一安心。18 時頃残りの 7 名が無事に下山して長い 1 日の山行が終了しました。悪天予報の連休にもかかわらず、テント場はご覧のように色とりどりのテントで花を咲かせています。



- 外でみんなそろって夕食宴会を楽しむことはできませんでしたが、各テントで乾杯。美味しいとトマトスープを作ってください大満足。CLのMUさん、皆さんありがとうございました。夜中はかなり強い雨が降り、テント内はかなり濡れてしまいました。朝になっても雨は止まず、一番のバスで広河原に向かいました。白山温泉で汗を流し、隣の安く美味しい蕎麦屋で天ざるを食べて帰葉しました。

